

が徐々に整備されてきた為、琵琶湖の水質や透明度が現在改善されつつあるとの事で認識を改めました。勿論、水草や固有種等の課題は残されていますが、美しい琵琶湖を守っていく為には県、各市の携わっている方々は勿論の事、我々一般市民も更なる関心を持たねばならないと感じた次第です。

さて午後のコースで勉強になった所は初めて寄せてもらった栗東の旧和中散本舗でした。この古い江戸時代のお店に明治天皇・皇后及び母御の皇太后まで行幸されていて、明治天皇が履かれた草履が残っていた事と、美しい国指定文化材の見事な庭園に感服した事と、お店内に当時のままの藁草をつぶす大きな製藁機械(まるで水車のような大きさをした木製動輪と、全て木製の歯車で構成)を見てびっくりした事です。又、特に気づかされたのは、八幡新町通りにも現存する旧西川利右衛門宅で、通りに面したお店に残る「摺り上げ戸」が当本舗お店の窓にも使われていた点です。やはり当時の近江商人はお店の利便性も、場所は違えど水平展開していたのが伺えます。末筆になりますが、案内して頂いた栗東ボランティアガイドの皆さんに感謝いたします。



淡海交流研修会に参加して

辻 純男



初めての訪問であり新発見の連続で、ベテランガイドさんの軽快な説明に感心し乍ら、楽しく見聞することができて大満足の研修会でした。

ガイド 最初の一步

毛利 由夫

五月晴れが続いておりましたが当日は、生憎と朝から久しぶりに雨が降る中出かけました。幸い曇り空に回復し野洲のさざなみホールに、県下各地から集まったボランティアガイド400数十名が一堂に会し、開会セレモニーに続き講演がありました。観光とは少し違った琵琶湖に関する内容でした。その後、8コースに分かれて現地研修に移り、小生は⑤コース栗東編「栗東八景積日の海道と城跡・新緑の日向山と和仲散」を選択、何はともあれ先ずは昼食タイム、JA会館にて地元業者幕の内弁当を賞味し、休憩もそこそこバスで出発、近江八幡の近くにある栗東市の名所・旧跡4か所とも、何れも

六月三日土曜日は、晴天でこの時期にはめずらしく爽やかな日にガイドデビューさせていただきました。お客さんは、山口県からの六十名で、ベテラン先輩2名の方とご一緒させていただきました。不安で緊張の日々の中で教えていただいたことを復習しながら当日をむかえました。バスが小幡駐車場に到着し、お客さんが下車されお迎えする段階になると緊張も最高になりました。

ガイドがスタートしました。とにかく話をすること、ガイドがスタートしました。とにかく話をすること、お客さんを見ている余裕がないので、

